

令和2年度学校評価の概要

重点目標	<p>1 本校の教育活動の意義を再確認し、強みを生かしながら、学習活動、部活動、学校行事の三位一体となった学校教育活動の充実を図り魅力ある学校づくりを進める。</p> <p>2 授業や家庭学習の充実により確かな学力を身に付け、進路目標の実現を目指す。</p> <p>3 安城東高校生としての品格を重んじ、他者を思いやる、豊かな心を育む。</p> <p>4 業務改善に向けた取組を行い、在校時間の適正化を図り多忙化解消に努める。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・職員の防災意識の向上と激甚災害時の対応の確認 中学生、保護者、地域に対する広報活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 防災避難訓練や講話等を通して、生徒や職員の防災意識を高める。 激甚災害時の帰宅方法を家庭と連携を密にしながら再検討する。 中学生の本校への意識を把握するとともに、中学校訪問の対象校、時期、内容を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響もあり、第1回の避難訓練は災害時の集団下校班のみ確認した。第2回の避難訓練はグラウンドへの避難を実施し、再度災害時の集団下校班を確認をした。 会議において災害時における職員の役割を確認できた。 訪問対象校を広げ、より広範囲の中学校に対し広報活動を実施できた。特に出身中学校に向けて生徒たちの生活の様子を伝えるよう努めた。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程編成と実施に向けた調整 学習環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで検討してきた教育課程編成案について新学習指導要領をもとに再確認する。 マルチメディア教室のようなICT機器やグループワークのしやすい教室の整備を行う。 ICT機器に関する教員への研修等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の意向の調整に苦勞する部分があった。全体の編成案は出来上がったが、今後、教科内容の詳細や入試との関わりが判明してきたところで再度確認をしていきたい。 経営保育室・被服室に移動式の机を導入することができた。また、単焦点プロジェクターや無線環境を整備し、ストレスなくアクティブラーニングやICTを活用した授業が実践できる状態になっている。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストに向けた校内体制の確立 各学年におけるキャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 各種研究会等への参加により適切に情報収集を行い、本校生徒にとって最善の対応を図る。 1・2学年では、進路行事、総合的な探究の時間を通して将来の明確な目標をもてるように支援する。 3学年では、総合的な学習の時間や面談を通して進路目標の実現に向け努力する姿勢を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> web形式であったが、各種研究会等へ参加し、新しい入試の基本事項および、受験生の傾向など、知り得た情報の共有を全職員に対し図ることができた。 行事の実施時期の変更などはあったものの、ほぼ予定通り行うことができた。第1・2学年では進路行事、総合的な探究の時間を通し、将来の職業や、大学・学部・学問内容を考える機会を設け、キャリア意識の向上を図った。 3年生の担任には、大学説明会や進路検討会への参加などを通じて情報の共有を図り、生徒面談に生かすことができた。また、様々な形で進路指導に関して教員研修も実施できた。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に対する意識の向上 いじめ防止対策の推進と徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故等に基づいた情報を提供し、注意喚起をこまめに行う。 定期的に通学路での交通安全指導を実施する。 定期的なアンケートの実施、ホームルーム活動や集会時などで、生徒がいじめ問題について主体的に考える機会を設け、未然防止を図る。 職員間での情報共有を積極的に行い、組織的に対応する 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな怪我に繋がる事故は発生していないが、自転車同士、対歩行者、自損事故といった内容が増加している。生徒に対し、加害者になる場合もあることをより意識させ、交通安全への意識を向上させたい。 年3回のいじめに関するアンケートの実施や、担任面談等を通じて、問題の早期発見・早期対応が図れている。一方、SNSの普及により、問題が複雑化したり表面化しないケースもあり、職員のSNSの知識等のスキルアップが必要である。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> ・通常清掃の徹底 ・相談活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校体制での清掃活動の充実を図る。 ・担任会、学年会、学年主任会等を通して、支援が必要な生徒の早期発見と早期対応を図る。 ・養護教諭、相談係の連携を密にし、SCとの打合せを定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5S運動について全校でしっかり取り組んでおり、清掃状況は良好である。外庭の清掃道具は事務部の迅速な対応で必要な数をそろえることができた。 ・対象生徒については、朝の健康観察のデータや保健室利用状況、学年主任からの連絡をもとに、学級担任、養護教諭、SC、保護者がしっかり連携をとりながらサポートできた。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の充実 ・部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会通信の発行や、定期的な議会の開催など、全校生徒の生徒会活動への参加意識を高める。 ・ボランティア活動などの社会貢献活動を積極的に推進する。 ・文武両道の実践を推進する。時間を有効活用し、効率の良い活動内容を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で学校行事に様々な制約がある中、生徒議会では、執行部内でさまざまな議題を提案し、例年以上に積極的に活動できた。また、生徒会通信も発行することができた。 ・クリーンフェスティバルは天候不良のため中止になったが、赤い羽根共同募金、ベルマークの活動を推進し、多くの協力を得ることができた。 ・段階的に設備・器具等の修理、新規購入が進んでおり、充実してきている。
ユネスコ・国際教育部	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の充実 ・ユネスコスクールとしての活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育講演会等、適切な情報発信を通して、生徒の国際理解を促す。 ・PTAとも連携し、ボランティア活動の充実を図る。部活動等のボランティア活動への理解を図り実施を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で今年度は講演会が中止となった。来年度は、オンラインでの講演会も視野に入れて、準備を進めたい。 ・ボランティア活動は十分できなかったが、ユネスコクラブは、文化部発表週間でSDGsについて発表し校内の関心を得ることができた。
図書部	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の適切な管理 ・高校生活に則した図書館活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書点検を行い、適切に蔵書の廃棄および購入を行う。 ・進路目標の設定等にも活用できる図書館活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度全ての蔵書を点検しており、今年度はそれをもとに貸し出し返却等の管理がしっかり実施できた。 ・進路関連およびESDやSDGsに関する書籍も充実させることができた。特設コーナーを設けることにより利用数も伸びた。
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・安城東高生としての生活の基礎・基本の確立 ・学習環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・早く高校生活に適応させ基本的な生活習慣、学習習慣を確立させる。 ・清掃指導の徹底と教室・廊下の整理整頓を意識付けさせる。 ・classiなどのオンラインコンテンツを利用し、家庭学習と家庭連絡の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻統計や学習時間調査の結果をうまく活用し、時間厳守や適切な生活習慣については確立させることができた。学習時間については例年と比較すると改善の余地がある。 ・ほとんどのクラスで学習環境が整えられていた。今後もすべての教室の学習環境が整うよう継続していきたい。 ・Classiを利用した生徒との交流や到達度テストを利用したスタディーサプリの個別対応課題などオンラインコンテンツを積極的に利用することができた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性や思いやりの心を育てるとともにリーダーシップを育成する。 ・進路についてよく考え、その進路希望実現のための基礎学力を獲得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に集団の中の一員であることを意識させ、他者を思いやる心を育てる ・総合的な探究の時間やLTの時間を利用し進路目標を明確化させ学習意欲を高める。 ・面談などを通して学習習慣の定着を図るとともに計画性のある、自分に合った学習方法を見つけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行では時間やルールを守れない生徒が若干みられたが、ほとんどの生徒が集団の一員としての意識を持つことができた。 ・総合的な探究の時間で行った課題研究を通じて進路目標を明確にさせることができた。また学年集会で進路に関する情報提供し学習意欲を高めることができた。 ・学習計画表を利用する生徒が増加し計画的な学習の重要性を意識する生徒が増えた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としての自覚をもたせ、社会人としての資質を磨く。 ・進路目標の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己、他者理解を深めるとともに人を思いやる心を育成する。 ・総合的な探究の時間や面談指導などを通して、進路目標を明確化し、意欲を向上させる。 ・課外学習などにおいて、生徒のニーズに合わせて細かく講座を設定し、生徒が参加しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業後や土曜日の自主学習の時間には、各生徒が集中して学習に取り組むことができた。 ・志望する学部系統で班分けし、各担当者が小論文指導や志望理由書の指導などを行った。国公立大学の出願先確定後も、その担当教員から指導を受けるなど、継続的な指導を行うことができた。 ・授業後の課外学習や土曜講座などに積極的に参加した。特に夏季休業中の特別課外には多くの生徒が参加し、学力の向上につながった。

総合評価	<p>学習環境の整備、生徒の進路実現、学習活動・部活動・学校行事の三位一体の教育活動の充実にも力を入れた。昨年度取り組んだ「安城東しあわせプロジェクト」をさらに一步前へ進めるため、本校の教育活動の意義と強みを再確認し、目標達成に向けて魅力ある学校づくりを目指した。その結果さまざまな成果をあげることができた。主なものとして以下のことがあげられる。</p> <p>学習環境の整備として、マルチメディア教室に加えて、ICT機器の利用やグループワークの行いやすい教室を2つ用意できた。結果、さらに多くの授業でICTを活用した学習ができ、新しい学びを実現する効果的な授業実践が進んだ。また、単焦点プロジェクターや無線環境、普通教室のホワイトボードの整備も進んだ。図書館もより充実したものになった。早朝から授業後まで開館し、学習の場として提供する一方、学習方法について参考になる本をはじめ蔵書を充実させ、配置も工夫した。生徒だけでなく保護者にも好評を得た。</p> <p>生徒の進路目標の実現のため、進路行事、総合的な探究に時間を通し、生徒の進路意識の向上を図ることができた。また、生徒の志望にあったきめ細かい進路指導を心がけ、機を捉えた進路講演会を行った。その結果、2021年度入試においては、国公立、私立大学ともに生徒の希望に沿った例年通りの成果を上げることができた。</p> <p>学校行事においては、コロナ禍の影響で活動の制限がある中、生徒会を中心にさまざまな案を出し合い、学校祭を中止にすることなく、10月に体育大会、文化部の発表週間を設けることで、学校の活性化に好影響をもたらした。部活動では多くの部が健闘して、県大会出場を果たすことができた。</p> <p>この1年間は教育活動を停止することなく、できることを着実に進めてきて、成果を上げることができた。次年度はさらに魅力ある学校づくりを進めていきたい。</p>
------	--